

(1) ば ら

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 根頭がんしゅ病 <i>Rhizobium radiobacter</i> <i>R. rhizogenes</i>	1. 無病苗を選ぶ。 2. 定植時には、根に傷をつけないよう注意する。 3. 蒸気消毒を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	植 付 前	－ －	ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
2 ペト病 <i>Peronospora sparsa</i>	1. 休眠期におけるせん定の際には、病梢を残さないように切除するとともに、株元に落ちた病葉を集めて処分する。 2. 施設内湿度を暖房と換気によって下げる。 3. 夕方の灌水や薬剤散布を避ける。 4. 窒素質肥料の過用を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. バラは薬害が出やすいので、すべての薬剤は高温時の散布を避ける。 2. 特に、10月上旬からの防除が大切である。	発 病 前	M3 M3	エ ム ダ イ フ ェ ー 水 和 剤 ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤
3 うどんこ病 <i>Podosphaera pannosa</i> <i>Erysiphe simulans</i> var. <i>simulans</i>	1. 耐病性品種を選ぶ。 2. 窒素質肥料の過用を避け、カリ質肥料を不足しないようにする。 3. 露地では5～6月、9～10月に発生が多い。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. サンヨールはアブラムシ類、ハダニ類にも登録がある。 2. ダコニール1000は着色期以降は使用しない。	発 病 前	1 3 3 3 9 19 19 － M5 M10 M7・19	ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤 ル ビ ゲ ン 水 和 剤 サ プ ロ ー ル 乳 剤 サ ル バ ト ー レ M E フ ル ピ カ フ ロ ア ブ ル ポ リ オ キ シ ン A L 水 溶 剤 ポ リ オ キ シ ン A L 乳 剤 サ ン ヨ ー ル ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0 モ レ ス タ ン 水 和 剤 (混) ポ リ ベ リ ン 水 和 剤
4 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 施設内湿度を暖房と換気によって下げる。 2. 病花や病枝を早めに除去し、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. サンヨールはアブラムシ類、ハダニ類にも登録がある。	萌芽前から 7日おき	－ M3 M3 M7・19	サ ン ヨ ー ル エ ム ダ イ フ ェ ー 水 和 剤 ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤 (混) ポ リ ベ リ ン 水 和 剤
5 黒星病 <i>Diplocarpon rosae</i>	1. 病枝を切除したり、枯葉を集めて処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 予防的に散布する。 2. ダコニール1000は着色期以降は使用しない。	萌芽期から 枝の伸長期	3 3 － M5	サ プ ロ ー ル 乳 剤 サ ル バ ト ー レ M E サ ン ヨ ー ル ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
6 アブラムシ類	1. シルバーマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープを使用する。 2. ハウス開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。	発 生 初 期	1B 1B 1B 1B 1B 1B 3A 3A 4A 4A 4A 4A －	ス ミ チ オ ン 乳 剤 ト ク チ オ ン 乳 剤 オ ル ト ラ ン 水 和 剤 オ ル ト ラ ン 粒 剤 ジ ェ イ エ ー ス 水 溶 剤 ジ ェ イ エ ー ス 粒 剤 ア デ ィ オ ン フ ロ ア ブ ル マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0 ア ド マ イ ヤ ー フ ロ ア ブ ル モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ベ ス ト ガ ー ド 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 オ レ ー ト 液 剤
		ハウス内防除 (く ん 煙)	4A	モ ス ピ ラ ン ジ ェ ッ ト
7 ハダニ類	1. ハウス開口部にビニールによる折り返し(ダニ返し)をする。 2. 圃場内の収穫終了後の株や周辺雑草は発生源となるので、これらの処分や除草に努める。 3. 作物残さや雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	発 生 初 期	1B 3A 6 10B －	ト ク チ オ ン 乳 剤 マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0 コ ロ マ イ ト 水 和 剤 バ ロ ッ ク フ ロ ア ブ ル ペ ン タ ッ ク 水 和 剤
		開 花 前	19	ダ ニ カ ッ ト 乳 剤 2 0
		ハウス内防除 (く ん 煙)	3A	テ ル ス タ ー ジ ェ ッ ト

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ばら

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
8 ミカンキイロアザミ ウマ	1. 外部から苗を購入する際には虫の有無に注意する。 2. ハウス開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3. 被害植物や雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 4. 圃場周辺の雑草処理を徹底する。 5. 侵入防止対策を実施しているハウスでは、青色粘着トラップを吊すことにより、密度を下げるができる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 密度が高くなると防除効果が劣るので、低密度時の散布を心がける。 2. 開花後は密度が急増するので注意する。	発 生 初 期	4A 4A 4A 15	モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ベ ス ト ガ ー ド 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 カ ス ケ ー ド 乳 剤

（２） 宿根かすみそう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 立枯病 <i>Fusarium moniliiforme</i>	1. 発病株は早めに除去する。 2. 排水をよくする。 3. 無病苗を導入する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	定 植 前	8B	ク ロ ー ル ピ ク リ ン
2 うどんこ病 <i>Oidium</i> sp.	1. 発病株を本圃に持ち込まない。 2. 発病株は早く除去する。 3. 採花後は残さを処分する。 4. 無病圃場の親株から採苗する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. サンヨールはハダニ類にも登録がある。	発 病 初 期	9 －	フ ル ピ カ フ ロ ア ブ ル サ ン ヨ ー ル
3 アブラムシ類	1. 圃場内やその周辺に繁茂する雑草は除去する。 2. シルバーマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープを使用する。 3. ハウス開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。	発 生 初 期	4A	モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤
4 ヨトウムシ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. 防虫ネット（4mm目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	若 齢 幼 虫 期	3A 3A 3A	ア デ ィ オ ン フ ロ ア ブ ル ス カ ウ ト フ ロ ア ブ ル ト レ ボ ン 乳 剤
5 シロイチモジヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. 防虫ネット（4mm目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	若 齢 幼 虫 期	3A 3A 15 15	ト レ ボ ン 乳 剤 ト レ ボ ン E W カ ス ケ ー ド 乳 剤 ア タ ブ ロ ン 乳 剤
6 ハダニ類	1. ハウス開口部にビニールによる折り返し（ダニ返し）をする。 2. 圃場内の収穫終了後の株や周辺雑草は発生源となるので、これらの処分や除草に努める。 3. 作物残さや雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。			

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

(3) スターチス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 下葉の発病葉を摘除する。 2. 施設栽培では暖房と換気によって室内湿度を下げる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. サンヨールは高温時には使用しない。 2. サンヨールは開花期までに使用する。	発 病 初 期	2 7 9 19 M1 10・1 M7・19	ロ ブ ラ ー ル 水 和 剤 ア フ ェ ッ ト フ ロ ア ブ ル フ ル ピ カ フ ロ ア ブ ル ポ リ オ キ シ ン A L 水 溶 剤 サ ン ヨ ー ル (混) ゲ ッ タ ー 水 和 剤 (混) ポ リ ベ リ ン 水 和 剤
2 うどんこ病 <i>Oidium</i> sp.	1. 密植を避け、過繁茂にならないようにする。 2. 排水をよくする。 3. 窒素肥料のやり過ぎや肥料切れにならないよう、施肥管理は適正にする。	発 病 初 期	9 39 M7・19	フ ル ピ カ フ ロ ア ブ ル ピ リ カ ッ ト 乳 剤 (混) ポ リ ベ リ ン 水 和 剤
3 炭疽病 <i>Glomerella cingulata</i> <i>Colletotrichum capsici</i>	1. 密植栽培を避け、風通しをよくする。 2. 激しく発病した葉は適葉し、枯死株や残さを圃場内に残さない。			
4 ヨトウムシ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. 防虫ネット（4mm目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。 3. 圃場周辺の雑草を除去しておく。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アディオンフロアブルで防除を実施しているところでは、アザミウマ類の発生が少なくなる。	若 齢 幼 虫 期	3A	ア デ ィ オ ン フ ロ ア ブ ル
5 シロイチモジヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. 防虫ネット（4mm目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. カスケード乳剤はハスモンヨトウにも登録がある。 2. 防除した後も成虫が飛来、産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。	発 生 初 期	15	カ ス ケ ー ド 乳 剤